



・発行・  
京都障害者  
スポーツ  
振興会

(第十六回障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバル特集)

# 「気持ちちはシンクロナ」

## 岡田 孝次

初めてシンクロナに接したのは、平成18年の5月。「第15回障害者シンクロナイズドスイミング・フェスティバル(以下フェスティバル)」でした。親子4人で見に行き、息子2人も興味津々で演技を見ていたのですが、この時、まさか1年後に、息子と一緒にフェスティバルに出る事になるうとは思っていませんでした。

それから2ヶ月後の7月。シンクロナの練習に初めて参加させてもらいました。参加したのは、小学5年生になる長男で、一応一人で泳げるという事で、一人でプールに入り一緒に練習させてもらったのですが、先生の指示に関係なく泳いでいました。長男は自閉症で、会話によるコミュニケーションが不得意な為、指示内容が正確に伝わらなかつたのだと思います。

2回目からは、本人が理解できるようにと、説明役(通訳?)として、私も一緒にプールに入る事になったのですが、母親と一緒に見学していた、4つ下の弟には、兄がプールで遊んでいるように見えたのでしよう。おまけに7月で暑かつた事もあり、「一緒に入る」と言いだす始末。

その後、何回か練習に参加させてもらううちに、弟も一緒に入れてもらえる事になりました。親子4人での練習が始まりました。

練習は月に2回、スポーツセンターの昼の休憩時間(1時間)を使って行われました。この時、障害者の兄には母親が、泳げない弟には私が補助に付いたのですが、もし補助に付くのが逆だったら、今回の大会に出ていたのは、私で

はなく母親の方だったと思います。練習内容は、20分程度、身体をならして泳いだ後、簡単な拍子にのって泳ぐことから始まり、回を重ねる毎に少しずつ、シンクロナらしい動きも練習するようになってきました。当初、練習だけの参加だった弟も一緒に、第16回フェスティバルに出場させてもらえる事になり、演技者9人、補助4人のチームになりました。今年初めて出場する2家族と昨年に続いて出場の7家族での、にぎやかな練習となりました。

年が明け、曲もアニメ、忍たまの「勇気100%」に決まり、振り付けも決まって本格的な練習がスタート。

シンクロナイズドスイミングの「シンクロナ」は「同調」という意味らしいのですが、曲に合わせて動き、なおかつ他のメンバーとも同調しなくてはならない。障害のある息子が、もつとも苦手とするところだったので、歌詞毎に、その時の動作と、プール上の位置が分かるように、絵カードを作り、練習を続けました。

本人も、覚えなくてはと思つたのか、スポーツセンターへの行き帰りの車の中では必ず「勇気100%」の力セツトをかけ、絵カードを何度も見ていました。平成19年5月13日、全国から集まった参加者の熱気

の中、「第16回フェスティバル」が開催されました。我が「京都Waterkids」も、曲目と同じで、勇気100%やる気満々だったのですが、一つだけ心配なことがありました。それはエントリーが40番中36番だった事です。朝9時の開場から、演技するまで5時間以上あり、息子がおとなしく待っていられるかという事でした。結果は予想に反して、ちゃんと待機、どうやら緊張しているのは私一人だったみたいです。

3回ばかり体育館で練習したあと、いよいよ本番。タイミングがずれたり、皆の動きについていけない部分はありませんでしたが、振り付けどおりの動きは出来ました。

でも演技の後、講評の方も言っておられました。動きを合わせる事はなかつたけれど、「一人ひとりが音楽に合わせて、楽しんで、それが全体としてまとまっている」と。つまり、動きはバラバラだったけど、みんなの気持ちちはシンクロナ(同調)していたのではないかと思います。

第16回フェスティバルが終了しましたが、6月から練習を再開する事になっており、1年後のフェスティバルでは、今回より成長した姿で、また皆さんとお会いでき

るように頑張っていきたいと思えます。

最後に、今回なんとか無事演技を終えられたのは、シンクロナの指導をしていた山副先生をはじめ諸先生方とチームのまとめ役をしてくださった岡本孝英さん、そしてメンバーの皆さんのおかげと感謝しております。本当に、ありがとうございます。



### 障害者スポーツを

#### 取り巻く環境(1)

(障害者自立支援法の間で)

広報部 久門 誠

私は学生の頃、振興会のボランティアで、障害のある方と関わらせていただく中で、重度の障害のある方の通所施設で勤務するようになり、月日の流れははやいもので、当時学生だった私も、もうすぐ四十代の年齢を迎えようとしています。

となると、あたり前の事ですが、以前は10代だった利用者さんも30代後半となり、家族さんもその分高齢化が進んでいます。

障害当事者の方は、加齢とともに障害の重度化が進んでいます。「以前歩行できていたのにできなくなった。立位を保持する力が弱くなった。」「普通食事 刻み食 ミキサー食へ、嚥下機能の低下」とともに食事形状に工夫が必要。「胃ろう・たん吸引など、医療的ケアが必要」「骨粗しょう症で、わずかなことで骨折」「筋緊張が強くなり、身体の痛みを訴えられる」など、以前に比べより手厚い支援が必要になったことを実感しています。

また、在宅生活を支えるご家族さんにも着実に変化が訪れています。「腰痛で入浴支援ができない」「以前は一緒によく出かけていたけれど

ども、もう無理」といったことから「ご家族さんが倒れた」「入院された」といった切実な問題もでてきました。

一方、以前と比べると障害のある方の地域生活を支える社会資源が(まだまだ不十分とはいえ)増えたのは確かです。特に2003年4月から始まった支援費制度により、ガイドヘルパー等の支援が使えるようになったことは大きな変化でした。

週末はガイドヘルパーさんとスポーツセンターへ、声も聞かれるようになりました。また入浴介護をホームヘルパーが支援するご家庭も増えてきました。しかし昨年10月より障害者自立支援法が施行され、利用者負担の導入・単価減少による事業所の収入源は大変大きな問題となつています。

私は重い障害のある方の地域での生活を支えるには「通うところ」「泊まるところ」「そしていずれば「住むところ」という支援が必要不可欠であると考えています。ところが現在の自立支援法の制度では、「泊まるところ(ショートステイ)」「住むところ(ケアホーム)」の単価は非常に低く、生活全般に介護が必要な重度の障害のある方の支援が成立するに程遠い状態です。少ない職員数で運営する設定なのでしよう。しかしこの枠組みで

はとても利用者の方の命や安全を守ることができません。また、事業をしたいと考えても「どのようにして運営したらよいか」頭を抱えてしまう状況です。

先日研修で「命を大切にすることを文化。命から、音楽や話を聞きました。私自身も学生時代に出会った

障害者スポーツ。そしてスポーツに関わる障害のある人の生き様から、本当に多くの事を学ばせていただきました。「スポーツは生きる力」を実感させていただき、育てていただいたと思っております。

しかし、こうして現状を見ると、障害のある方、とりわけ重い障害のある方の声は圧倒的多数の健常者の前では少数派であり、また訴えもちいさくなりがちです。障害者スポーツの充実・発展は今の現状に対しての対抗力となりうるのではないのでしょうか。私も本当に微力ではありますが、自分にできるほんのちいさな一歩でも大切に、これからも頑張っていきたいと思えます。

(障害のある子供を持つ親の方からも貴重な原稿を預かっていきます。来月号に掲載します)

平成十九年度(財)京都府体育協会「優秀選手賞」

- 江島大佑(水泳競技)
- 西尾佳子(水泳競技)
- 山口良太(ボッチャ競技)
- 古庄勇太(水泳競技)
- 中山 要(シッティングバレーボール競技)

フエスピック(三位内入賞)や国内のジャパンパラリンピック大会での大会新記録などの大会で優秀な記録を出した選手が対象。

表彰式は6月9日(土)午後3時から京都テルサで行われます

第27回全京都障害者総合スポーツ大会

卓球バレー大会出場

102チーム  
(一般61 施設26 学校15)

第27回全京都障害者総合スポーツ大会 水泳競技大会  
申込締切  
7月19日(木)

行事	6月	12(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園
		14(木)	卓球バレー審判講習会	京都市障害者スポーツセンター
		17(日)	第27回全京都障害者総合スポーツ大会 総合開会式・卓球バレー大会	京都府立体育館
		24(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽
予定	詳しくは、京都障害者スポーツ振興会事務局まで(火曜日及び第3金曜日は定休日) 京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 <a href="http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/">http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/</a> (5月6日に一部更新)			

来月のつどいは  
7 / 8  
第2日曜日